



毎月20日は ペットフードの日

高齢のペットへのフードの与え方

ペットフードは、年齢と栄養バランスの関係を考慮して与えます。人も犬・猫も、年をとると共に病気の可能性が高くなるため、栄養管理も高齢期ケアの重要な要素です。

1 水

犬や猫は高齢期になると、体内の水分平衡が乱れ、脱水症状が起きやすくなりますので、新鮮な水を常に飲めるように準備しましょう。あまり、水を飲まない場合には、水分量の多いフードとの併用や切り替えもお奨めします。

2 エネルギー

犬や猫も、高齢になると余り活動的でなくなるため、必要なエネルギー量も少なくなり、肥満になりやすくなります。また、非常に高齢になると体重不足になりやすくなるので、注意が必要です。

3 カルシウムとリン

高齢期の犬や猫に腎臓病は、症状が表れることもありますが、症状が現れないことも多くあります。特に、リンは、病気の症状を早めてしまいますので、過剰摂取しないように気をつけましょう。

4 タンパク質

高齢でも健康な犬や猫には、十分なタンパク質とエネルギーの摂取が大切です。食事量を増やすのではなく、質の高いものに切り替えていき、過剰摂取せずに、十分に供給しましょう。

5 脂肪と必須脂肪酸

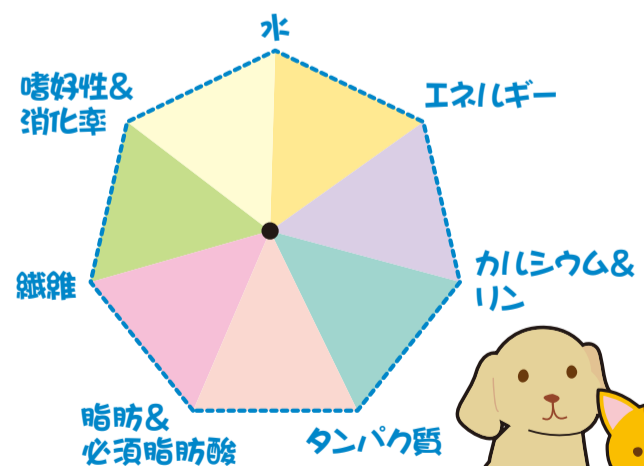
基礎代謝が下がってくるため、高齢で健康な犬・猫の場合、脂肪の摂取量を徐々に減らしていくことが必要です。高齢でも7歳と13歳の犬・猫では必要な食事量も異なります。非常に高齢になると体重が減少する傾向にあるので必須脂肪酸の要求量も増えていきます。

6 繊維

高齢になると便秘をおこしやすくなります。フードに、繊維質の増加が必要となりますので、繊維質により、正常な腸の働きを促進します。

7 嗜好性と消化率

高齢期の犬・猫は、嗜好や味覚、消化力等の低下が目立つため、嗜好性や消化に考慮した食事にする必要があります。消化の良いウェットフードの活用や、ドライフードをお湯でふやかして嗜好性を高める等の工夫も必要です。



ペットフード販売士 認定テキストより